

多角経営類型により異なる 病院事業内容別損益実態

一橋大学大学院経営管理研究科 教授 荒井 耕

多角経営類型ごとの
各病床種類類型の
相対的な損益実態

今回は、多角経営類型ごとの、医療法人の中核である病院のいわば事業内容ともいえる病床種類の類型別に損益実態を明らかにする。その際、一般病床、療養病床、精神病床という病床種類の全病床数に占める割合で定義された厚生労働省医政局の『病院経営管理指標』調査の病床種類類型に基づいて分析した。

病院のみ型では、一般型が採算性が一番悪い一方で、精神型と療養型が同程度によい（図表1）。病院・診療所型では、ケアミックス型が一番悪く一般型が一番よい。病院・老健型では、一般型が一番悪く療養型が一番よい。病院・診療所・老健型では、一般型とケアミックス型が同程度に悪く、療養型が一番よく、次いで精神型がよい。各病床種類類型の相対的な採算性の違いは、多角経営4類型ごとに異なる。

また多角経営4類型合計での病床種類類型別損益実態は、従来指摘されてきたように、一般型が一番悪く療養型が一番よいが、病院・診療所型では療養型よりも一般型の方が採算性がよい。そのため、

病床種類類型別損益実態をより適切に把握するためには、多角経営類型ごとの分析が極めて重要であるといえる。なお、蛇足ながら指摘しておく、病床種類類型間の利益率の差（一般型1・5%と療養型2・7%の間で最大の1・2%）よりも、多角経営4類型間の利益率の差（病院のみ型1・4%と病院・老健型3・3%の間で最大の1・9%）の方が大きいことも判明した。なお経年的に常

図表1 多角経営類型別の病床種類類型別事業利益率

経営類型別事業利益率	病院のみ型	内訳：附帯業務		病院・診療所型	病院・老健型	病院・診療所・老健型	合計
		無し	有り				
一般型：一般病床8割以上	0.6%	0.4%	1.3%	3.2%	2.2%	2.6%	1.5%
療養型：療養病床8割以上	1.8%	1.4%	2.5%	2.6%	4.8%	4.6%	2.7%
精神型：精神病床8割以上	1.9%	1.4%	2.7%	2.3%	2.8%	3.9%	2.3%
ケアミックス型：その他	1.6%	1.4%	1.9%	2.0%	3.3%	2.5%	2.2%
合計	1.4%	1.0%	2.1%	2.6%	3.3%	3.0%	2.1%

図表2 病院経営医療法人群全体に占める経営類型別構成割合

経営類型別構成割合	病院のみ型	内訳：附帯業務		病院・診療所型	病院・老健型	病院・診療所・老健型	合計
		無し	有り				
一般型	17.6%	13.8%	3.8%	6.6%	3.6%	3.3%	31.0%
療養型	11.7%	7.9%	3.7%	2.3%	3.8%	1.7%	19.5%
精神型	10.0%	6.1%	3.9%	2.5%	3.4%	1.7%	17.5%
ケアミックス型	14.8%	8.3%	6.5%	4.5%	7.4%	5.3%	32.0%
合計	54.0%	36.0%	18.0%	15.8%	18.2%	12.0%	100.0%

また、多角経営類型と病床種類類型を組み合わせた16の経営類型別にみると、最低の病院のみ型かつ一般型（0・6%）と最高の病院・老健型かつ療養型（4・8%）の間では、4・2%もの差がある。なお病院のみ型を附帯業務の有無別に細区分した場合、利益率が最低の病院のみ型附帯業務無し／一般型（0・4%）と最高の病院・老健型／療養型（4・8%）の差はさらに大きい。また蛇足ながら、病院のみ型の利益率を附帯業務

16経営類型別の
損益実態

に附帯業務の有無により有意な利益差が確認された病院のみ型を、附帯業務の実施の有無別にさらに区分した場合には、多角経営類型間の利益率の差（3・3%－1・0%＝2・3%）はさらに大きい。

の有無別に見た場合、とくに精神型ではその差が大きい。

さらに、事業利益率を異にする各種経営類型が、法人群全体のかでどの程度の割合を占めているのかをみた（図表2）。16経営類型で最も利益率の低い病院のみ型／一般型が、全体のなかで一番大きな割合を占めている。病院のみ型を附帯業務の有無で細区分した場合にも、最も利益率の低い病院のみ型附帯業務無し／一般型が、唯一1割を超えて一番大きな割合である。一方、病院・診療所・老健型で療養型や精神型は、法人群全体に占める割合はとくに小さい。なお、病院のみ型を附帯業務の有無別に細区分した場合、まったく経営多角化していない附帯業務無し法人が36%を占め、多角経営5類型で最大の割合となっている。また、病院のみ型では附帯業務の有無が1対2の割合だが、一般型では相対的に附帯業務無し法人が多く、ケアミックス型などでは相対的に附帯業務有り法人が多い。ただし、法人群全体では附帯業務有り法人が48・2%（約1対1の割合）のため、病院のみ型ではケアミックス型などでも附帯業務有りの相対割合は低く、一般型での有りの相対割合が極めて低いといえる。

16経営類型別損益の経年推移

次に、経営類型別の利益率が経年的にどう変化してきたかを明らかにする。図表3左は16類型を利益率が高い順に順位づけた場合の3年度間の順位の推移を示している。どの年度でも、病院・老健型／療養型および病院・診療所・老健型／療養型がベスト2であり、病院のみ型／一般型および病院のみ型／ケアミックス型がワースト2となっている。しかしその間に位置する多様な経営類型の利益率の順位はかなり変動している。

また図表3右は、各年度の経営類型別の具体的な利益率を高い順に並べたものである。利益率が悪い類型群を経年的に比較すると、平成19年度の頃は一般型であることが低い利益率に強く影響しているようであったが、平成25年度までには病院のみ型であることが強く

影響しているようである。つまり病床種類類型よりも多角経営類型の方が低い採算性に強く影響を与えてきているようである。また利

益率が最低の類型と最高の類型のその差は、5・4%、4・7%、4・2%と、経年的に少しずつ縮小傾向にあることも判明した。

図表3 16経営類型別の採算性の経年的な推移

